

## 【アンケート用紙】

## 1. 議員になろうと思った理由・きっかけは何ですか？

議員に出ようとしたのは、9年前。その時、上の子は小学校1年で、下の子は3歳でした。子育て支援がまだ未だの時(就学前の医療費補助がなかった)で、高齢者支援中心。子供や子供を育てる保護者が持つ課題(声)のためです。

## 2. 議員になって良かったことは？

時代の流れもあって、少しずつ子供の環境が整備されてきました。特に、発達障害やアレルギーの子供さんをもつ保護者が行政と課題共有する場を作ってくれています。(かなり細やかに)結果、実態にあった支援環境を一緒に作っていますし、お母さん方も元気になってきました。地域も自治会の役員だけではなく、若い女性たちが入ってきたところも出てきました。

## 3. 議員になって大変だったことは何ですか？また、それをどのように乗り越えましたか？

今までの慣習と、男性優位の合意形成は、今でも慣れません。議運の論議は、今でも入っていきませんし、見方を変えれば、もっと違うことにエネルギーをかければ・・・と感じています。会議場ではなく、日頃の人間関係や勉強などで調整したり、理解を求めています。

## 4. あなたの、ワーク・ライフ・バランスの状況は、どうですか？

実の母と主人と高2、小1の5人家族です。家事は、ほとんど母、育児は主人(自営業)。主人の父母も高齢ですが、とても助けてくれています。子供達の親としての自信はありませんが、愛情豊かな主人にお願いしつつ、最近では、子供にも力をかしてもらっています。友人も多々、力をかして頂いています。

## 5. ワーク・ライフ・バランスを進めていくには、どのような政策が必要だと思いますか？□

社会政策も必要ですが、自分の家族、親類、友人、子供の保護者などの人間ネットを整理して、構築していくことも重要と考えます。ただ、女性が働く場合、子供の疾病など「緊急の休み」に対応する対策(病児保育、事業者側のシフト体制)が大切と考えます。育給後のキャリアアップできる制度なども必要でしょう。

## 6. 女性議員を増やすには、どうしたら良いと思いますか？

上にも書きましたが、妊娠、育児に伴う「緊急休み」を歓迎する事業所のしくみが必要。夫の育休の制度化(罰則付き)など、育給が就労の一貫であるという環境が重要。各事業所の幹部に「子育てしてきた女性」を配置する必要があります。

## 7. 尊敬する政治家は？

市川房枝  
先日亡くなられた、マンデラ元大統領、リンカーン大統領

## 8. パートナーの有無(事実婚を含む)※該当するものに、○をお願いします

有 ・ 無

(パートナー有の場合)  
パートナーの職業

会社員 ・ 公務員 ・  自営業 ・ その他